科目名	19. 生活行動からみるからだⅢ 心身のバランスを整えるしくみ 子どもを生む				
履修年次	1年次	科目区分	専門基礎分野	単位数 (時間)	1単位 (15時間)
ディプロマポリシー(DP)	☒ 人を大切にするところ ☐ 現象を適切に把握し地域で生活する人を支える看護実践力 ☐ チームの中で連携・協働するための力 ☐ 専門職業人として自己研鑽する力				
科目目標	人体の恒常性維持のための調節機構（液性調節、ストレス反応）の基本的なしくみを理解することができる				
到達目標	自分のからだに関心を持ちながら、恒常性維持のためのホルモンのしくみについて表現することができる				
評価方法	筆記試験（100点）				
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会				
参考文献					
教育方法と学生への期待 (求めること)	看護の対象である人間のからだがどのようなつくり（形や働き）になっているのかは看護学にとって最も基本的な知識の一つである。からだの知識は、病気の理解、病気等による生活行動への影響の理解、看護援助につながっていくので、しっかり身につけていって欲しい。ここでは外部環境からの刺激をとらえて適切な反応をして身の安全を守るという外部環境とのやりとりと、刻々と変化する内部環境の状態をとらえて、その変化に反応して恒常性を維持する調節機構の基本的な仕組みを理解する。その2として体内の物流システムを使い、遠隔の効果器に情報を伝える液性調節(内分泌)、刺激に対するストレス反応を設定する講義で人間のからだがどのようなつくり（形や構造、働き）になっているのかを理解する。そのためには自己学習が必要不可欠である。得た知識を使える知識に（生活行動からからだの働きを理解する）なるように努めて欲しい。				
回	学習項目	学習内容			授業方法
1	情報を伝える	自律神経(交感神経・副交感神経)の機能と構造 どのように情報を伝えるのか			講義
2	遠隔に情報を伝える①	情報の伝達、直接と遠隔の違い ホルモンの化学構造 ホルモンの作用機序			講義
3	遠隔に情報を伝える②	全身の内分泌器官 ホルモンの作用			講義
4	遠隔に情報を伝える③	全身の内分泌器官 ホルモンの作用			講義

5	遠隔に情報を伝える④	ホルモン分泌の調節	講義
6	遠隔に情報を伝える④ 子どもを生む①	ストレスと恒常性維持 生殖器の機能と構造	講義
7	子どもを生む②	生殖を支えるホルモン	講義
7.5	恒常性維持のためのホル モンの働き	月経が28日周期なのはなぜ？	演習